

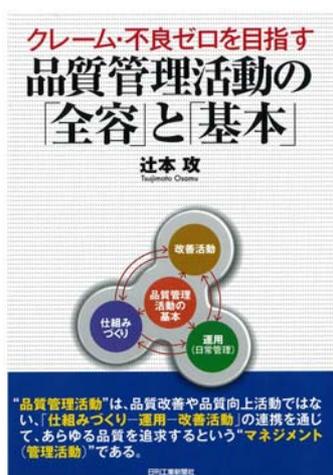
『クレーム・不良ゼロを目指す 品質管理活動の「全容」と「基本」』

長年進めてきたわが国の品質管理活動は、知らず知らずのうちに悪習に堕ちり、停滞してきている。その上、近年導入された品質マネジメント（管理活動）の国際標準 ISO9000 シリーズの取り組みで、混乱が起こっている。ISO9000 シリーズの真意がトップから第一線担当者に至るまで理解されないまま、TQM 活動との融合が不十分な認証維持活動となり、活動が形式化している。

現状の問題認識として、「品質管理活動の悪習」を 10 項目にまとめ、解決方図を示している。その根本は、TQM 活動のノウハウが体系化されず、伝承すべきことが明確になっていないということである。体系化すべきは、品質管理活動の「全容（全体像）」と「基本」である。ISO9001 の規格要求事項は、確かに参照すべき全容であるが、TQM 活動のノウハウが明瞭に反映されていない。自工程保証、方針管理、初期管理、基本ルール順守、日常的改善などである。

さらに品質管理活動は、品質向上や品質改善という“良くする、減らす”という活動ではない。クレームや不良を“ゼロにする、発生させない”という取り組みが必要である。そのためには、品質保証と品質目標達成のための仕組みをつくり、運用（日常管理）し、問題や異常を摘出して日常的に改善活動を行う（筆者はこれを“仕組みづくり－運用－改善活動の連携活動”、つまり“マネジメント”という）ことが必須である。溜めた記録・データに基づくまとめ改善ではいけない。

本書は、品質管理活動の「全容」と「基本」を大胆に提示するものである。



☆ 著者 : 辻本 攻 (つじもと おさむ)

辻本技術士事務所代表、技術士（経営工学部門）

☆ 出版社 : 日刊工業新聞社

☆ 発刊日 : 2010 年 9 月 24 日

☆ 価格 : 2,940 円（税込）、 3 2 1 ページ

目次

第 1 章 品質管理活動の発展経緯と現在の課題・解決方図

第 2 章 品質管理活動の全容

第 3 章 品質管理活動の基本

第 4 章 統計的な見方と統計手法

第 5 章 自工程保証、源流管理

第 6 章 検査保証と検査の役割

第 7 章 初期管理（設計・開発管理）

第 8 章 基本ルール順守（標準順守）と日常管理

第 9 章 重点管理と先手管理

第 10 章 品質改善法